

令和3年度 東久留米市立 南中学校

学校評価報告書

学校教育目標	愛 勉学 自主性 健康	愛の心を育てよう 勉学に励もう 自主性を伸ばそう 健康を育もう	教育 ビジ ョン	【目指す学校像】	○ 知・徳・体の調和のとれた生徒を育成する学校    ○ 生徒一人一人の個性が尊重され、生徒がもつ可能性を引き出す学校    ○ 自国や他国の伝統・文化を尊重し、国際社会で活躍できる日本人を育成する学校
				【目指す児童・生徒像】	○ 自学自習の習慣を身に付け、自分を高めることができる生徒    ○ 目標をもち、進んで挑戦する生徒    ○ 多様性と共生社会を理解するとともに日本人としての自覚と誇りをもつ生徒
				【目指す教師像】	○ 常に研究と修養に励む教師    ○ 生徒・保護・地域から信頼され、期待に応えられる教師    ○ 教育目標及び学校経営計画の具現化のために、組織的に生徒を指導する教師
前年度までの学校経営上の成果と課題				○ 基礎的、基本的な学力が定着している生徒が多いが、自分の考えをまとめる力を育成し、思考力・判断力・表現力を高めていく。 ○ 不登校生徒に多様な学びの機会を設定し、関係機関と連携し、組織的に取り組んでいく。	

東久留米市第2次教育振興基本計画				中期経営目標	短期経営目標	評価指標・評価基準		自己評価		学校関係者評価		次年度の方策
No.	四つの柱	基本施策	今年度学校で重点を置く「具体的施策」	(令和5年度までの3年間)	(1年間)	取組指標	成果指標	取組	成果	評価	コメント	
1	I 健全育成	規範意識や他人への思いやりなど豊かな心を育む教育の推進	人権教育の推進	生徒一人一人の道徳的実践力の育成	「特別の教科 道徳」を中心に、互いの良さを認め合う生徒を育成する。	教員の90%以上が、豊かな人間性を育てる教育、道徳性を育てる教育を実践する。	豊かな人間性を育てる教育、道徳性を育てる教育をしていると、生徒・保護者の肯定的評価 4…80%以上 3…70%以上 2…60%以上 1…60%未満	4	4	3.7	・ICTの活用が目覚ましく、時代を感じます。 ・不登校の生徒も同じように使えたとよいです。	各学年の道徳担当者を中心に、授業改善を行い、豊かな人間性を育てる授業を実施する。
2	I 健全育成	個性を認め合う教育の推進	自己肯定感・自己有用感の醸成	教育相談体制の充実	校内委員会とSCを活用し、不登校生徒の生活の改善と新たな不登校生徒を出さない。	不登校生徒の現状を、些細なことでも改善する。	教育相談に力を入れ、組織的な不登校対策を行っている。保護者の肯定的評価 4…80%以上 3…70%以上 2…60%以上 1…60%未満	2	3	3.2	・学校に来ると、生徒たちはあいさつしてくれます。 ・防災教育も大事な教育の一つだと考えます。	2学期に、不登校生徒が増加した。原因は、学力、友人関係、家庭環境など、多岐にわたる。日頃から生徒理解に努め、相談しやすい環境を構築する。
3	I 健全育成	いじめ問題への対応	いじめ防止対策推進基本方針に基づいた取り組みの推進	自分と他の人を大切に考えることができる態度の育成	未然防止を第一に考え、早期発見・早期対応に努める。	教員の100%が、いじめ防止に努める。	いじめ防止に努めていると、生徒・保護者の肯定的評価 4…80%以上 3…70%以上 2…60%以上 1…60%未満	4	4	3.8	・昨年1年間はコロナにより学校行事等が影響を受けたと思います。その中で、教員の方々が工夫されていたと思います。	毎学期の生活アンケートを活用し、未然防止・早期発見・早期対応に努める。
4	II 学力向上	確かな学力の育成	基礎的・基本的な学力の定着と学ぶ意欲の向上	基礎的・基本的な学力の定着・個に応じた指導	生徒一人一人の実態に応じた授業を工夫する。	教員の90%以上が、生徒の実態に応じた指導形態を工夫した授業を実施する。	生徒の実態に応じた指導形態を工夫していると、生徒・保護者の肯定的評価 4…80%以上 3…70%以上 2…60%以上 1…60%未満	4	4	3.8	・コロナ禍の中で、改めて人との関わりの大切さや言葉かけを意識的に増やし、自己肯定感を高めることが大切だと感じている。	授業の工夫改善に全教員で取り組んでいく。授業を公開する機会が少なかったため、保護者への情報発信も充実させる。
5	II 学力向上	確かな学力の育成	ICT機器活用等による多様な指導方法の工夫	ICT機器の活用を進め、生徒の学習への関心を高める。	GIGAタブレットを活用した授業を実施する。	教員の80%以上がGIGAタブレットを活用した授業を実施する。	わかりやすい授業だと、生徒・保護者の肯定的評価 4…80%以上 3…70%以上 2…60%以上 1…60%未満	4	4	3.8	・子供が自分の意見が言える環境づくりが大切だと考える。 ・多様性の理解を進める取組が必要である。	多くの教科で、GIGAタブレットを活用した授業を行った。生徒の関心も高く、授業への集中は高まったと思われる。
6	III 教育環境の整備	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実	生徒一人一人の教育ニーズに応じた適切な指導・支援の充実	校内委員会での情報共有、支援内容の検討を充実させ、支援シートを活用し、必要な生徒へ適切な支援をする。	教員の90%以上が、特別な支援を必要とする生徒に組織的に対応する。	特別支援教育に組織的に対応していると、生徒・保護者の肯定的評価 4…80%以上 3…70%以上 2…60%以上 1…60%未満	4	4	3.7		校内委員会を充実させ、学校全体で組織的に対応していく。
7	III 教育環境の整備	安全・安心な学校づくり	地域や外部人材を生かした体験活動の充実	防災計画や危機管理体制の充実	地域と連携した地域防災訓練、多様な事態を想定した避難訓練を実施する。	消防署及び地域と連携した防災訓練を実施する。	学校は安全対策を実施していると、生徒・保護者の肯定的評価 4…80%以上 3…70%以上 2…60%以上 1…60%未満	2	4	3.5		2年連続で、感染症拡大防止のため、地域防災訓練を実施できなかった。訓練ができずとも、地域防災を意識できる取組を準備していく。
8	オリンピック・パラリンピックの精神を生かした教育の充実	日本人としての自覚と豊かな国際感覚をもつ人材の育成	英語教育と国際理解教育の推進	国際社会で活躍できる日本人の育成	ALTや外部人材の積極的な活用と国際交流	英語科教員だけでなく、教員の90%以上が取り組む。	国際理解教育の充実に努めていると、生徒・保護者の肯定的評価 4…80%以上 3…70%以上 2…60%以上 1…60%未満	4	4	3.8		アメリカの高校との直接交流は、2年連続で実施できなかった。「留学生が先生！」プログラムは継続し、その他の取組を検討していく。
9	オリンピック・パラリンピックの精神を生かした教育の充実	児童・生徒の主体的な取組	児童・生徒の主体的な取組	日本人としての自覚と誇りの涵養	オリ・パラ教育プログラムの計画的な実施	アスリート等による1回以上の講演会の実施と学年ごとにパナソニックオリ・パラプログラムを実施する。	オリ・パラ教育の充実に努めていると、生徒・保護者の肯定的評価 4…80%以上 3…70%以上 2…60%以上 1…60%未満	3	3	3.2		オリンピック・パラリンピックは実施されたが、学校として、これまでの学習の成果を確認する場面を設定できなかった。1月にパラリンピアンとのオンラインでの交流を実施する予定である。
10												
11	III 教育環境の整備	各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進	ライフ・ワーク・バランスの改善	ライフ・ワーク・バランスに対する満足度を80%以上に上げる。	タイムレコーダー等により、教員自身が在校時間を把握する。	月当たりの時間外在校時間が45時間を越える教員を20%以内にする。	教員の満足・おおむね満足が 4…80%以上 3…70%以上 2…60%以上 1…60%未満	2	3	3.0		毎月、時間外在校時間を個々に知らせることで、勤務時間への意識は高まってきたが、時間を減らすまでは至っていない。満足度を数値で表すと66.1%だが、「満足」「おおむね満足」の肯定的評価は87%であった。業務内容を精選しないで、在校時間の短縮は困難である。